

北東炭開発計画

世界最大の炭鉱

出炭開始も間近

しては世界最大のスタンレー・パークを散策し、水族館でイルカやシャチの妙技を見、バンクーバー発祥の地ギヤスタウンやその近くの中華街を訪れ、あるいはグランビル島の新しい文化村、新渡戸記念庭園や、トータムボールなどの展示で知られるプリティッシュ・コロンビア大学民族学博物館に足を運ぶ。フェリー(海上バス)やヨットから見るバンクーバーの眺望もすばらしい。

あるいはまた州都のビクトリア。エンプレス・ホテルから二階建てバスに至るまで、英国風の彩りが濃いこの町は、気候と環境の良さと年配の人たちには特に人気が高く、余生をここで過ごす人々も少なくない。

BC州では、一歩都市を離れると、そこはもう大自然だ。五つの国立公園と三百を超える州立公園。三百三十もある高山湖。七つの氷河。野花が咲き、野生の動物が徘徊する大自然の中で、釣り、ハイキング、乗馬、イカダ乗りやカヌー、山登り、ゴルフ——と、あらゆるアウトドア・レクリエーションを楽しむことができる。冬はスキー。みごとに景観に息をのみながら、人々は山腹を滑っていく。かつて金鉱で栄えた山間の町を訪れるのも感慨深い。

エキスポ86の開催で、観光地としてのプリティッシュ・コロンビアはさらにその声価を高めるだろう。観光は、年間の売り上げが約二十億ドルに達し、BC州にとって林業、鉱業に次ぐ一大産業となっている。

見渡す限りの針葉樹林が高く、低くうねるように続き、一部切り開かれて浅い雪をかぶった平地では、ブルドーザーや建築機械が忙しく動いている。ここBC

州北東部、ドーソンクリークの南西約百キロにある一帯で、BC州史上かつてない大規模な開発工事が進められている。

二つの露天炭鉱を新規に開発し、年産合計八百万トンの上質炭を生産しようというのが、この北東炭開発プロジェクトだ。掘り出した石炭は、大半を日本が買い取るようになっており、日本にとってもしきわめて重要な意義をもつプロジェクトである。

プロジェクトは、直接開発費二百五十億ドルをかけた一種の総合開発であり、七本の柱を持っている。

(1)炭鉱。クイントット・コール社とテック・ブルムース・コール社が二つの鉱山を建設する。クイントット炭鉱はカナダ最大の原料炭の鉱山として年産合計六百三十万トンの原料炭と一般炭を産出する。テック炭鉱は年産百七十万トンの原料炭を産出する予定。

(2)ニュータウン。ロッキーマウン脈のタンブラー・リッジに炭鉱従業員とその家族のためのニュータウンを建設する。商店、学校、病院、文化・娯楽施設など生活に

必要な施設一切を含む近代都市となるはずである。

(3)鉄道。BC鉄道がプリンス・ジョージとチエトウインドの中間点からタンブラー・リッジ・ニュータウンまでの百二十九キロを山を越え、谷を渡って結ぶ新線を建設。同時に既設線の輸送能力アップも図る。新線は山岳地帯を通るため、全長九キロと六キロの二本のトンネルが含まれ、すでにあらかた完成している。

一方、カナダ国鉄(CN)は、プリンス・ジョージから太平洋岸のプリンス・ルパートまで伸びる既設線の能力アップを図り、かつ石炭を運ぶ専用のユニット・トレインを製作中。

(4)送電網。BC電力がG・M・シユラム発電所から炭鉱とニュータウンへ送電する電線網を、すでに昨年十月、完成した。



(5)道路。州の運輸省が、チエトウインドとタンブラー・リッジ間に全長九十二キロの二車線高速道路を建設。合わせてドーソンクリーク・リッジ間に全長九十二キロの二車線高速道路を建設。合わせてドーソンクリーク・ハイウェイの拡張工事も

進行中。

(6)港湾。カナダ港湾公団が、プリンス・ルパートのリドリー島に石炭専用ターミナルを建設し、リドリー・ターミナルズ社が世界最大のローダー荷役など設備を新設する。そのほかプリンス・ルパート港自体も、二十五万トン級の鋼炭船が接岸できる埠頭が今年末に完工する。

(7)州立自然公園。クイントット炭鉱から南へ二十キロ離れたモンクマン州立公園、ブルムース炭鉱から北西へ二十キロ離れたサクンカ・フォールズ州立公園が完成。そのほかグイリム・レーク州立公園はすでに保養地として訪れる人も多い。深い森林と溪谷、豪壮な滝、谷間に咲き乱れる夏の花など、雄大な北東部の自然が人々の来訪を待っている。

炭鉱を初め、町も鉄道も、橋も道路も、七月段階ではほぼ完成に近づいており、今年末、本格操業が開始されれば、炭鉱に二千人、関連事業に千人、カナダ全体で年間四万六千人分の雇用創出が見込まれている。さらに、チエトウインドやドーソン・クリークなど周辺地域の発展、インフラストラクチャー整備による今後の開発投資の軽減など、州に与える利益は多大なものになるはずである。

もともとこの開発は、日本との石炭売買契約成立を待って、現実化したものだけに、日本との関係は非常に深いものがある。九億五千万ドルの国際協調融資には、日本の銀行が参加しているし、輸入が始まれば、日本の石炭総輸入量の四分の一がカナダ炭ということになる。